

大田区立大森東中学校 中学 1 年生・2 学期 社会科歴史「中世のものづくり」

学習用ブックリスト作成手順

図書館による授業支援は、以下の手順に沿って試行しました。

学校司書の配置がなく学校図書館支援センターもない公立中学校のケースとして、授業者(小石都志子：大森東中学校 教諭)、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査(鎌田和宏：帝京大学文学部教育学科・教職大学院教職研究科 准教授)の3者による協働作業を行いました。(敬称略)

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(13) 評価・振り返り」時の感想・コメント
(0)	—	事前準備	国際子ども図書館職員は、教科書を読んでおく。	
(1)	2011/9/27	授業者への授業構想インタビュー①	国際子ども図書館職員とプロジェクト主査が、授業者となる教員に、学習用ブックリストの対象となる授業の構想(授業目的・調べる方法・時間数・授業日程等)をインタビューする。 授業者は、インタビューを受けながら、調べ学習のテーマを検討する。 ⇒ 記録② 授業者インタビュー・指導案・選書用キーワード	・授業者である小石先生は、ステップ(1)から(10)の時間をかけて、調べ学習の指導案を徐々に固めていらしたが、それに対して図書館は十分な支援ができなかったと感じている。授業者の授業作りに対する支援を効果的に行うために、最初のインタビュー時に、授業作りの方法や指導案が当該時点でどの程度固まっているのか等も聞いておくべきだった。(国際子ども図書館職員：ILCL)
		ブックリスト選書用のキーワード案作成	授業者とプロジェクト主査が、教科書を見ながら、ブックリスト選書用のキーワードをピックアップする。	・教科書会社によって出てくるキーワードが違うことがある。複数の教科書を見比べれば、より良かったかもしれない。(授業者) ・複数の教科書を揃えるのは、公共図書館だからこそできる授業者支援とも言える。(プロジェクト主査)
(2)	～10/3	ブックリスト選書用キーワードの確認・確定	3者で確認し合いながら、ブックリスト選書用キーワードを確定させる。 ⇒ 記録② 授業者インタビュー・指導案・選書用キーワード	

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(13) 評価・振り返り」時の感想・コメント
(3)	～10/18	一次選書	国際子ども図書館職員が、書誌検索ツール (NDL-OPAC 等) を活用して、選書用キーワードをもとに一次選書を行い、一次選書リストを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> •OPAC をキーワードで検索してヒットした資料をそのままリスト化することはせず、担当者で本の中身も見て、候補本を一次選書リストに載せるかどうか検討した (ILCL) •一次選書リストに、資料の内容情報も含まれていたのは助かる。(授業者)
(4)	10/22	一時選書用資料の収集 一次選書の検討 授業者への授業構想インタビュー②	国際子ども図書館職員が、一次選書リストをもとに、国際子ども図書館の所蔵資料の中から資料を集める。 授業者と国際子ども図書館職員が、1冊1冊実際の資料の内容やその活用方法を確認しながら、一次選書リストや追加候補資料を検討する。 授業者は、実際に資料をどう活用するかを考え、授業のテーマの検討を進める。国際子ども図書館職員は、授業者のコメントを聞いて当該時点でのテーマ案を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> •中身を見ながら資料を検討できたのが、とても良かった。また、授業構想を授業者と図書館員とで協働で検討することは、授業者が授業のねらいを明確化できるという効果があると思う。(授業者) •教材となる資料がどんな内容かが分からないと、調べ学習の指導案も具体化しにくい。その意味で、このステップには意味がある。(主査)
(5)	11/2	二次選書の作成	国際子ども図書館職員が、(4)の検討結果を受けて、ブックリストを修正 (資料の追加・削除) し二次選書リストを作成する。	
(6)	～12月7日	指導案の検討	授業者が、二次選書リストを参考に、授業のテーマと指導案の検討を進める。[実際には、(7)の資料の収集と同時並行で行った。]	

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(13) 評価・振り返り」時の感想・コメント
(7)	11月中旬 ～11/28	授業用資料の 収集	<p>授業者が、公共図書館に依頼して、(5)の二次選書リストをもとに、授業用資料を収集する。</p> <p>[実際には、公共図書館に、1か月間の団体貸出しを受ける形で資料収集を依頼した。]</p>	<p>・公共図書館に資料収集を依頼できたのは助かったが、公共図書館から学校への配送サービスがなく、学校まで資料を運ぶのが大変だった。(授業者)</p> <p>・学校への資料配送がないと、本を使った調べ学習は行い難い。しかし、逆に、公共図書館が配送サービスを行っていても、利用する教員が少なくサービスの継続が困難になってしまう地域もあると聞く。両方が揃っていることが大切だろう。(主査)</p>
(8)	11/28頃	指導案の作成	授業者の中で授業のテーマが固まる。指導案を作成する。	<p>・このころ、授業のテーマを「中世のものづくり」とする決心がついた。(授業者)</p>
		二次選書リストの修正	授業者が(7)で収集した資料を確認する。テーマに照らして、足りないピックスについては新たな資料を公共図書館に依頼して追加する。	
(9)	12/7	授業者への授業構想インタビュー③	<p>授業者は、国際子ども図書館職員と確認し合いながら、指導案を詰める。</p> <p>⇒ 記録② 授業者インタビュー・指導案・選書用キーワード</p>	<p>・資料の背にマスキングテープを貼り、調べ学習用資料に通し番号を振るなどした。(ILCL)</p> <p>・調べに慣れていない生徒たちに短時間で調べをさせる必要があった今回の授業では、資料に振ってあった通し番号が役立った。(授業者)</p>
		授業準備	国際子ども図書館職員が、授業者とともに、調べ学習のための資料準備(資料へのラベル付けや資料排架など)を行う。	

ステップ	日程	作業事項	内容	「ステップ(13) 評価・振り返り」時の感想・コメント
(10)		指導案の修正・確定	授業者が、(8)の指導案を修正し、指導案を確定させる。[実際には、(11)の授業実践のうち、初回授業の状況を見た上で、(8)の指導案の修正を行った。] ⇒ 記録② 授業者インタビュー・指導案・選書用キーワード	・初回の授業の状況を見て指導案を修正するという方法は、複数クラスの授業を教員一人が担当することが多い中学校ではよく行われる。(主査)
		ブックリスト完成	授業者が、確定した指導案をもとにブックリストを修正し確定させる。 ⇒ 記録③ 学習用ブックリスト	
(11)	12/12～20	授業実践 (4クラス分)	授業者が、ブックリストの資料を用いて、授業を行う。 国際子ども図書館職員は、授業を見学する。生徒の感想と授業で実際に使われた本を知るためにアンケートを実施。 ⇒ 記録④ 授業実践ドキュメント	・生徒へのアンケートは、学校でも授業研究などでよく行われる。図書館に頼まれば、抵抗感なくやってくれる教員も多いだろう。(授業者) ・生徒のアンケートとともに授業者である教員の感想も聞いておくとよい。量的な結果だけでなく、質的な結果が得られるようなアンケートだとより良い。(主査)
(12)	12/22	後片付け	国際子ども図書館職員が、授業者とともに、学習後の後片付け(公共図書館への資料返却等)を行う。	・図書館員が資料の選書・排架・返却までをやってくださる支援は、授業者にとってありがたかった。(授業者)
(13)	2012/1/24	評価・振り返り	授業者、国際子ども図書館職員、プロジェクト主査が集まって、(1)から(12)までを振り返り、作成したブックリストや図書館による授業支援方法を評価する。	・振り返りをすることで、今回の授業の成果を次の授業に活かせる。図書館員と今度はこうしようと相談できる。(授業者)